

気仙・三陸の水産加工業 2026年版

数字で見る、これから10年の歩き方

陸前高田・気仙沼・大船渡・住田の水産加工事業者のみなさまへ 2026年8月／石田
祐太（三陸ハピネス・陸前高田市）

はじめに：この紙が無料である理由を、先に書きます

実は、無料の相談窓口はほかにもあります。

岩手側（陸前高田・大船渡・住田）なら、岩手県よろず支援拠点と地元の商工会、気仙沼なら、宮城県よろず支援拠点、気仙沼ビズ、気仙沼商工会議所です。この紙で足りなければ、そちらも使ってください。

出典：[岩手県よろず支援拠点](#)／[陸前高田商工会](#)／[宮城県よろず支援拠点](#)／[気仙沼ビズ](#)／[気仙沼商工会議所](#)

それでも私がこの紙を置くのは、実績がないからです。開業したばかりで見せられる実績がない。だから実績の代わりに、一次資料で確認した数字と、外れる可能性まで正直に書いたものを置いています。

調べるのにAIを何体も同時に動かすので、私の原価は普通のやり方と違うというだけの話です。登録もダウンロードも要りません。売り込みの電話もしません。

1. まず、みなさんの判断は正しかった

この15年、三陸の加工屋さんの多くは「量が戻れば元に戻る」と考えて設備と人を維持してきました。**その判断は、合理的でした。**数字がそれを裏づけています。

気仙沼市魚市場（暦年）

年	数量	金額	平均単価
2010（震災前）	103,609t	225.0億円	217円/kg
2023	65,005t	233.3億円	359円/kg
2024	67,526t	225.8億円	334円/kg

2023年、**量は震災前の63%しか戻っていないのに、金額は震災前を超えました。** 単価が217円から359円へ、**15年で6割以上上がった**からです。

つまり「量が減っても単価が上がって帳尻が合う」——これが15年間、実際に効いていた。待つのは正しかったのです。

2. 2025年に何が起きたか。そして「2022年と同じでは？」への答え

年	数量	金額	平均単価
2022	45,968t	138.2億円	301円/kg
2023	65,005t	233.3億円	359円/kg
2024	67,526t	225.8億円	334円/kg
2025	44,332t	160.6億円	362円/kg

2025年、**単価は362円と過去最高なのに、金額は160.6億円まで落ちました。**

ここで、多くの社長さんがこう思われるはずです。

----- 切り取り -----

「2022年も45,968トンまで落ちて、翌年ちゃんと戻ったじゃないか」

そのとおりです。2025年の44,332トン、2022年の45,968トンと**3.6%しか違いません**。2022年は不漁の年でしたが、翌2023年に量も金額も戻りました。**同じことが2026年に起きる可能性は、確かにあります**。

私が「今回は違うかもしれない」と考えている理由は、3つです。

理由1：単価で吸収する余地が、ほとんど残っていません。2022年の単価は301円でした。そこから2023年に359円へ上がる伸びしろがあった。2025年の単価はすでに**362円で過去最高**です。ここからさらに単価で埋めるのは、2022年のときより難しい。

理由2：落ちた魚種の顔ぶれが違います。2015年と比べて、カツオは▲80%、サバ類は▲91%。一方でイワシは**+236%**に増えています。「今年は獲れなかった」ではなく、**獲れる魚そのもの**が入れ替わっている形です。

理由3：背景が海水温だからです。三陸沖の海面水温は2024年、平年より**+4.00℃**でした。サンマ・スルメイカ・サケの合計漁獲は、2014年の54.8万トンから2023年の10.7万トンへ、**10年で5分の1**になっています。

大船渡も同じ形です。

年度	数量	金額	平均単価
2024年度	26,538t	67.1億円	253円/kg
2025年度	17,504t	50.5億円	288円/kg

これが、この紙で一番お伝えしたいことです。

「単価が上がるから大丈夫」という15年間の勝ちパターンは、実際に効いていました。ただ、その効き目には天井があります。**2025年がその天井なのか、2022年と同じ一時的な谷なのかは、まだ確定していません**。

私の見立ては「天井」です。ただし外れる可能性は残ります（\$5に書きました）。だから\$4では、**どちらであっても損をしない打ち手**から順に並べています。

3. 何が起きたのか（犯人は1匹です）

魚種	2015年	2025年	増減
カツオ	22,990t	4,686t	▲80%
サバ類	8,419t	764t	▲91%
サンマ	11,772t	8,557t	▲27%
イワシ	1,850t	6,218t	+236%

気仙沼の看板だったカツオが、10年で5分の1になりました。一方でイワシは3倍以上に増えていきます。

魚が減っているのではなく、入れ替わっています。

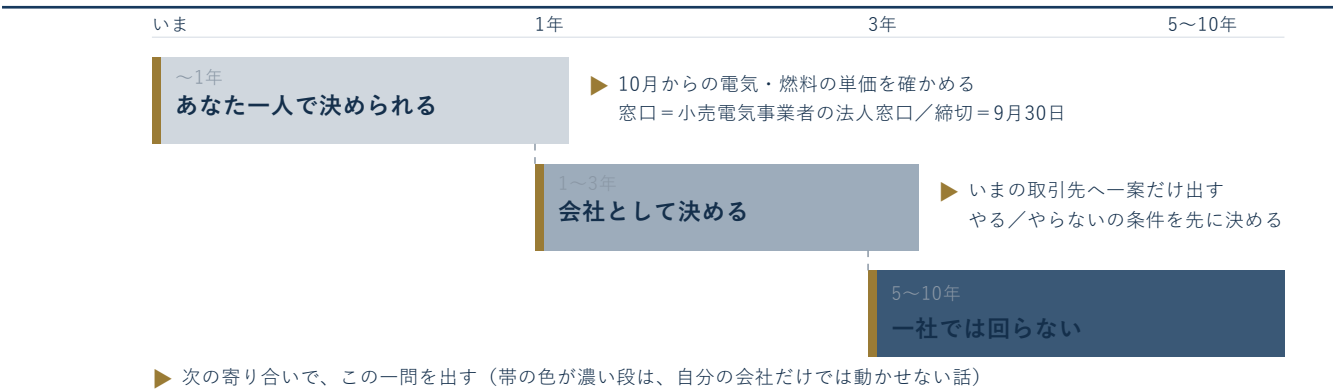
三陸沖の海面水温は100年あたり+1.27℃上昇し、2024年は平年より**+4.00℃**でした。サンマ・スルメイカ・サケの合計漁獲は、2014年の54.8万トンから2023年の10.7万トンへ、**5分の1**になっています。

これは戻る性質のものではありません。カツオを待つ経営は、待ち続けることになります。

4. これからの話を、三つのハンドルに分けます

時間の長さではなく、**誰が回せるハンドル**かで分けます。

これからの話を、三つのハンドルに分ける



4-A. あなた一人で、今すぐ回せるハンドル(～1年)

10月以降の原価を、今の請求額で置かない

円相場は1ドル159円台です。輸出には追い風でも、輸入原料・包装資材・燃料は同時に高くなります。A重油（東北・2026年6月）は大型ローリーで126.4円/L、電気・ガスの値引き支援は2026年9月使用分までです。全国の有効求人倍率は1.18倍、食品製造業の欠員率は2.8%です。

出典：[日本銀行「外国為替市況」](#)／[資源エネルギー庁](#)／[厚生労働省](#)

A重油の出典：出典なし（確認済み数字台帳にURL記載なし）

【誰が】あなた一人で決められます。

【最初の一手】窓口は、契約中の小売電気事業者の法人窓口とA重油の納入業者です。締切は**2026年9月30日使用分**。最初に電話する先は小売電気事業者の法人窓口で、「支援終了後の単価で、10月分の概算をください」と聞きます。

いまの魚を変えず、商品の形を一つ変える

骨を取る、火を通す、一人前に分ける。このどれか一つを、いまの設備で試します。八戸のディメールは、しめさばをスライス済み・食べ切りの個食トレーに変え、売上が約2倍になりました。釜石の小野食品は「温めるだけ」の商品を主力にし、消費者直販比率を震災前10%から現在70%へ変え、2024年3月期の売上は53億円でした。

出典：[復興水産加工業販路回復促進センター](#)／[東北経済産業局](#)

【誰が】あなた一人で決められます。

【最初の一手】窓口は、いちばん取引量の多い取引先の仕入れ担当です。締切は**2026年9月1日**。最初に電話する先もその担当で、「骨取り・加熱済み・個食のうち、どれなら一度試せますか」と一つだけ聞きます。

外国人を雇っているなら、育成就労の確認を先にする

育成就労は2027年4月1日施行、育成就労計画の申請は2026年9月1日から始まります。気仙沼では73工場中25工場、大船渡では26工場中8工場が外国人を雇っています。

出典：[出入国在留管理庁](#)／[e-Stat 2023年漁業センサス](#)

【誰が】調べ始めることは、あなた一人で決められます。

【最初の一手】窓口は、現在使っている監理団体です。締切は、個社ごとの提出期限が指定資料では**不明**のため、申請開始日の**2026年9月1日まで**に確認します。最初に電話する先は現在の監理団体。
三陸ハビネス／気仙の業種まるごとレポート

4-B. 会社として決めるハンドルの(1～3年)

ここでは、前浜魚の一次加工と冷凍が主力で、地元問屋と量販店が主な取引先、後継者未定、外国人従業員ありという合成モデル1社に当てはめます。実在の会社ではありません。

いまの取引先へOEM／PBを出す

新規販路へ飛ぶ前に、現在の取引先へレンジ対応や個食の受託品を一案だけ出します。

分岐：もし遊休時間と採算の合う発注見込みがあるなら小ロットで受け、そうでなければ一次加工を残してOEM／PBは増やしません。

自社ECと定期便を持つ

食品・飲料・酒類ECは2024年に3兆1,163億円、前年比+6.36%でした。ただし、これは水産物だけの数字ではありません。自社ECは、設備投資の理由ではなく、購入者と再びつながる入口として扱います。

出典：[経済産業省](#)

分岐：もし発送、問い合わせ対応、再購入の案内を今の人員で続けられるなら小さく始め、そうでなければ自社ECは持たず、既存の売り場を使います。

輸出認定へ進むか止める

2026年1～5月の水産物輸出先は、米国490億円、ベトナム230億円、タイ172億円、EU65億円、中国31億円でした。中国だけを待つ前提には置きません。

出典：[農林水産省](#)

分岐：もし認定後の維持を担う人と具体的な買い手が決まっているなら認定費用を確かめ、そうでなければ認定申請はしません。

やらない選択：観光・体験を増やさない

この合成モデルでは、製造と外国人受入れの整備を先にし、観光・体験は始めません。人を割いた後も製造が回る根拠が出た時だけ、改めて並べます。

4-C. 一社では回らないハンドル(5～10年)

1. 中国側の施設再登録が、産地全体で進まない

岩手は条件つきで輸出可能になりましたが、2025年11月18日時点で、申請697施設に対して中国側の再登録は3施設です。宮城県は輸入停止が残るため、気仙沼と岩手側では前提も違います。

出典：[農林水産省「中国の輸入規制の概要」](#)／[農林水産省大臣会見](#)

既存団体：大船渡湾冷凍水産加工業協同組合、気仙沼水産加工業協同組合、気仙沼冷凍水産加工業協同組合。団体名の出典：出典なし（ご指定資料）

2. 魚種転換に、設備と原料の組み替えが追いついていない

気仙沼では2015年から2025年に、カツオが22,990tから4,686t、サバ類が8,419tから764tへ減る一方、イワシは1,850tから6,218tへ増えました。一社が設備を変えても、原料の集荷、保管、一次処理が繋がらなければ回りません。

出典：[気仙沼市統計書](#)／[気仙沼市魚市場](#)

既存団体：広田湾漁協、気仙川漁協、気仙地区漁協連合会、大船渡市漁協ほか5漁協、宮城県漁協気仙沼地区支所。団体名の出典：出典なし（ご指定資料）

3. 人口減と後継者不在の中で、外国人材の受入れが切れ目なく続くか分からない

気仙沼市の人口は2020年の61,171人から2040年に43,688人、大船渡市は2020年の34,728人から2035年に26,638人と推計されています。中小企業の後継者不在率は2024年に52.1%です。地元採用、承継、外国人材の制度対応を一社ごとに別々に調べ続けるには限界があります。

人口・後継者不在率の出典：出典なし（確認済み数字台帳にURL記載なし）

既存団体：協同組合大船渡水産加工、東北産業振興協同組合、気仙職業訓練協会、陸前高田商工会、大船渡商工会議所、気仙沼商工会議所、本吉唐桑商工会。団体名の出典：出典なし（ご指定資料）

新しい組織は作りません。各団体の利用率・収支は公開資料からは分かりません。

投資ゼロで、90日以内に確かめる小さな実験

上の既存団体のうち参加できる団体だけで、農林水産省が公表する「申請施設数」と「中国側の再登録施設数」を同じ表へ転記します。90日間、数字が更新された日、出典URL、前回との差だけを残します。新しい会議も仕組みも作らず、今ある寄り合いで表を一度見て、続ける価値があるかを三陸ハビネス / 気仙の業種まるごとレポート

私は業界を動かさせません。できるのは、圏内の全員が同じ数字を見ている状態を作ることまでです。

【次の寄り合いで、この一問】

1社では解けない事実

岩手側の中国向け輸出は、1社の申請だけでは進み具合を確かめられません。

裏づけ数字3つ

1. 条件つき解除は37道府県。
2. 中国向け施設再登録の申請は697施設。
3. 中国側の再登録は3施設。

出典：[農林水産省「中国の輸入規制の概要」](#)／[農林水産省大臣会見](#)

そのまま声に出せる一問

「うちの組合として、中国側の施設再登録が何件まで進んだか、同じ出典で定点確認していますか」

この問いに答えるための調べ物は、私が無料でやります。

5. この紙が間違っている可能性について

正直に書いておきます。

- 一番大きい可能性はこれです。2025年は、2022年と同じ「一時的な谷」かもしれません。
§2に3つの理由を書きましたが、いずれも決定打ではありません。2026年に量が戻れば、私の見立ては外れです。
- カツオの不漁が温暖化によるものか、漁獲圧によるものかは、まだ特定されていません。私は「戻らない前提で動くほうが安全」と書きましたが、戻る可能性はゼロではありません。

- **成功事例をそのまま真似しても伸びません。** 上に挙げた中で、施策と数字の因果までたどれたのは小野食品・ディメール・マルカイチの3社だけです。他は「その会社が伸びた」以上のことは言えません。
- **市場が伸びていることと、あなたの会社の需要があることは別です。** ECも冷凍食品も水産物単独の数字ではありません。
- **一番足りないのは、この紙にない情報です。** つまり、あなたの会社の原料の仕入れ通貨、電力契約、年齢構成、後継者。それが入って初めて、この一般論は計画になります。

半年後、この見立てが外れていたら、外れたと公開で書きます。

6. 出典

本文の数字はすべて一次資料で確認しています。

- 気仙沼市魚市場「水揚げ高」 <https://kesennuma-uoichiba.jp/fishmarket/data/>
- 大船渡市魚市場「水揚げ統計表」 <https://www.ofunato-fm.com/landing/download/2026>
- 経済センサス（e-Stat） <https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0004005687>
- 2023年漁業センサス 流通加工調査 <https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0002146495>
- 農林水産省「中国の輸入規制の概要」
https://www.maff.go.jp/j/export/e_shoumei/oshirase/attach/pdf/asia-26.pdf
- 出入国在留管理庁「育成就労制度」 https://www.moj.go.jp/isa/03_00163.html
- 気象庁「海域別海面水温」
https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/cfig/warm_area.html?area=K
- 水産庁「令和7年度水産白書」（魚介消費・輸出入）
https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/R7/attach/pdf/260605_2-1.pdf
- 水産庁「令和6年度水産白書」（サンマ・イカ・サケの漁獲）
https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/R6/attach/pdf/250606_2-8.pdf
- 日本銀行「外国為替市況」

- 厚生労働省「一般職業紹介状況」 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_74767.html
- 経済産業省「電子商取引に関する市場調査」
<https://www.meti.go.jp/press/2025/08/20250826005/20250826005-a.pdf>
- 日本冷凍食品協会「冷凍食品の生産・消費」 https://www.reishokukyo.or.jp/wp-content/uploads/2026/05/1_disclosure_r07.pdf
- 東北経済産業局「魚種変化対応へのヒント」
https://www.tohoku.meti.go.jp/s_hukko_suisan/topics/pdf/250414.pdf
- 復興水産加工業販路回復促進センター 企業事例 <https://www.fukko-hanro.jp/corporate/20181019>

最後に

次はどの業種を調べましょうか。飲食・宿泊、建設・工務店、小売・産直を予定しています。リクエストがあれば、その業種を先にやります。

あなたの会社の数字を入れた個社版は、**先着5社まで無料**で作ります（モニター）。お願いはひとつだけ、結果を実名か匿名で実績として公開させてもらうことです。6社目からは有料になります。金額は先に紙1枚でお示しし、不要ならその場で終わりです。売り込みの電話はしません。

この資料の続き、個社版のご相談は、次のページから受け付けています。

<https://sanriku-happiness.com/gyoshu/>

（このPDFを保存・転送された方も、上のページから連絡できます）

石田祐太／三陸ハピネス（陸前高田市）